

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成28年10月26日 NO.63 (363)

オー君 「花ちゃん！ひっつきむしだよ。校庭で見つけたんだ。あちこちにあるよ。」

花ちゃん 「ひっつきむしといっても、虫ではなく植物ですね。」

オー君 「このひっつきむし・・・何っていったかな。」

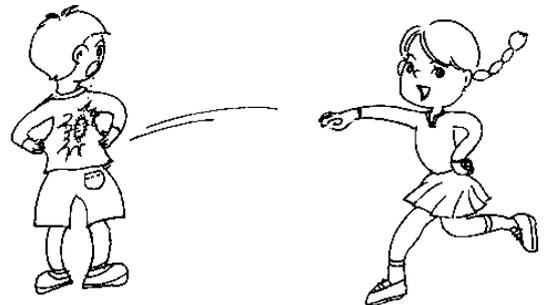
花ちゃん 「これは、オナモミというのよ。」

モンタ博士「ピンポン。そのとおりさ。オナモミで遊んだことはあっても、正しい名前まで知っているとは、さすが、植物博士の花ちゃんだね。」

オー君 「このオナモミはとてもよくくっつくね。花ちゃんに向けて、えい！
ポイツと・・・。」

花ちゃん 「やったわね。私も負けずに、えい！ポイツと・・・。」

モンタ博士「まままあ、遊ぶのも楽しいけど、
オナモミをじいっと観察して
みようよ。」



オー君 「じいっと・・・観察ですか・・・。」

花ちゃん 「じいっと・・・観察すると・・・。」

あれ、さきが少し・・・ちょっとまがっているわ。これで、くっつくのね。」

モンタ博士「そうだね。むかしむかし、スイスという国の発明家で、マエストラルさんという人も、このオナモミの実を虫メガネでじいっと観察していたんだ。」

花ちゃん 「それで、どうしたのですか。」

モンタ博士「それで、とげがカギのようにまがっていて、服にからまりつくオナモミから、あるものを発明したんだよ。」

オー君 「あるもの・・・？あるものって何ですか。」

モンタ博士「みんなも知ってるだろう。見たことあるだろう。マジックテープさ。」

オー君 「へえー、マエストラルさんってすごいね。いや、オナモミがすごいのかな。」



オナモミ (キク科)

オナモミのつぶやき

やあ、みなさんこんにちは、おいらはオナモミさ。正しくはオオオナモミという帰化植物なのさ。今ではオナモミそのものはあまり見られなくなったそうさ。ところで、草花遊びというと、女の子に人気があるようだけど、おいらは男の子にも人気があるぜ。実を投げっこするのもいいけどさ、そっと、だれかの背中につけちゃう、なんていういたずらもけっこうおもしろいね。服にはついてても、手にはつかない触感がまたいいだろう。ラグビーボールのようで投げやすいのも人気の秘密かもしれないなあ。また、音もなくくつつくのもいいだろう。くっついたり、はずしたりと、離脱が簡単なのもいいだろう。それに、何度も何度も再利用できるのもおいらの人気の秘密かもしれないなあ。この頃じゃ、おいらを真似ておもちゃまで作るっていうんだから、人気者はつらいよね。それにしてもマエストラルのおじさんには感謝だね。あんたのおかげでおいらは、大ブレイクさせてもらって、本当に本当にありがとうございました。ところで、マジックテープという名前だけど、これはある会社の商標名であり、正しくは面ファスナーと呼ばなくてはいけないそうなんだけど、まあ、一般名詞化されているからまあいいんじゃないかな。面倒なお話はこのくらいにして、おうちのみなさんも、おいらを見つけたら子供の頃に戻って、お子さんと一緒に楽しく遊んでおくれよ！